

音を五線譜に書くことによってつくる「書かれた音楽」と、
パフォーマンスや即興演奏といった「書かれない音楽」、
それらは一見おおきく違った性格の作品のようにみえるかもしれないが、
深いところでつながっている。

本公演で取り上げる作品は、いずれも、
何らかの感情や風景を表現したり、
何らかのメッセージを伝えようとしたりすることを避けている。

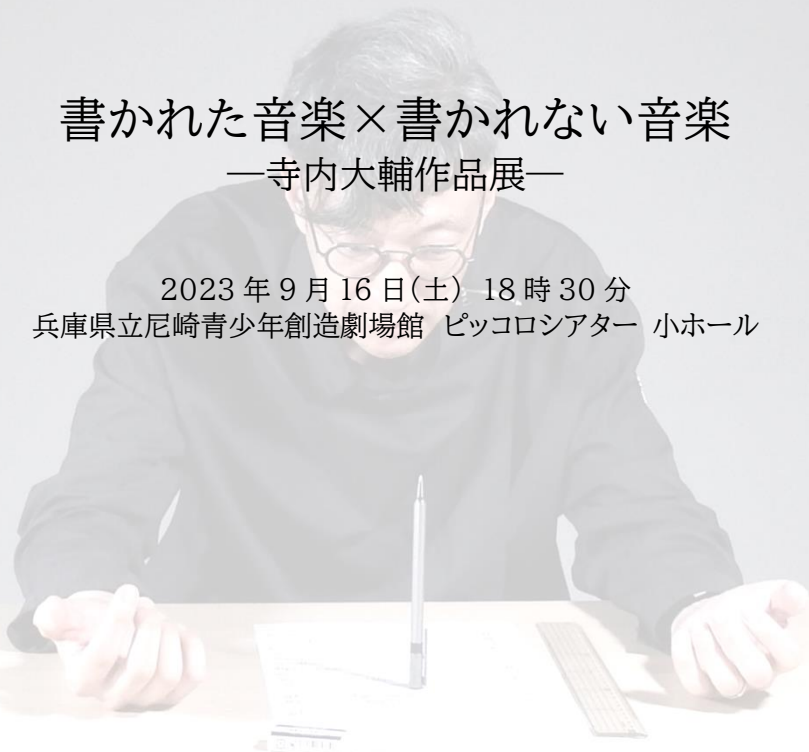
ステージで発している音・行われている行為は、
それぞれ、聴こえるまま・見えるままの現象に過ぎないが、
それでも、ジョン・ケージのようにあるがままに任せるのではなく、
私個人のきくこと・みることに対する感性が強く反映されたものになっている。

このことは、来場者であるあなたの感性について、
あなた自身に何らかの発見をもたらすかもしれない。

そうなってほしい。

書かれた音楽×書かれない音楽 —寺内大輔作品展—

2023年9月16日(土) 18時30分
兵庫県立尼崎青少年創造劇場館 ピッコロシアター 小ホール



ご挨拶

本日は、野営地主催、「書かれた音楽×書かれない音楽―寺内大輔作品展」にご来場くださり、ありがとうございます。本公演は、チラシ等で告知しておりましたとおり、野営地メンバーのひとりである寺内大輔の作品に焦点を当てた企画となっております。

寺内大輔は、これまで、国内外で広く活動してきていますが、その創作範囲は、室内楽作品、即興演奏、パフォーマンスのための作品、演奏インスタレーション、カードゲーム、BGM、校歌等、多岐に渡っています。しかしながら、その幅広さゆえに、彼の仕事の全貌がわかりにくくなっていることも否めません。彼の作品が発表される機会としては、「現代音楽」の演奏会、ライブカフェやクラブ、美術館やギャラリー、教育現場などが挙げられますが、それぞれの現場では彼の活動の一部しか知ることができません。そこで、本公演では、室内楽作品に代表される「書かれた音楽」と、即興演奏やパフォーマンスのための作品群「書かれない音楽」を同じプログラムに混在させることによって、彼の創作範囲の広がりを感じていただくことを企図いたしました。

ご来場のみなさまには、作品や演奏一つひとつの魅力を味わっていただくと同時に、同一の作者によって異なるジャンルに展開された表現のつながりを感じていただければ幸いです。

最後になりましたが、本公演に助成をくださいました公益財団法人 神戸文化支援基金、日本音楽即興学会、賛助出演にご快諾くださいました伊藤憲孝様、米川さやか様、山田岳様に深く感謝申し上げます。

野営地、本企画担当
倉本高弘、野村美貴子

寺内大輔より、本公演タイトルの補足

皆様、本日はご来場ありがとうございます。お忙しいなか、本公演にお運びくださったこと、心より感謝申し上げます。

本公演のために、野営地の皆様、賛助出演のお三方は、たいへん多くの時間と労力をかけて準備に取り組んでくださいました。また、野営地には、本日の出演メンバー以外にも何名かのメンバーが所属していますが、そうした方々もこぞって応援してくださいました。ありがとうございます。

さて、本公演のタイトルは、「書かれた音楽×書かれない音楽—寺内大輔作品展」となりました。ここでの「書かれた」「書かれない」という表現は、五線譜に書かれた／書かれない、を意味しています。パフォーマンスのための作品は五線譜ではなく、インストラクション(演奏手順を説明したもの)として「書かれて」います。そのため、もしかしたら「五線譜に書かれた音楽×それ以外の音楽」というタイトルのほうが適しているかもしれません。それでも、これらを「書かれた」「書かれない」という言葉で分けたのは、五線譜と五線譜以外では、その書かれた内容の性格が異なることが理由です。

通常、五線譜には、演奏家が出すべき音の高さ、長さ、強弱などの、出てくる音の「結果」が中心に書かれています。そのため、五線譜に書かれた音楽は、演奏するたびに違った音楽になることはさほどありません。対して、本公演における(五線譜に)「書かれない音楽」は、演奏家やパフォーマーが「すべきこと」が中心に書かれています。演奏家やパフォーマーが何かをする、しかし、その結果は、演奏家やパフォーマーの、感性、好み、表現の技能、その時の気分や体調などが深く関わった即興的判断に大きく依存しています。偶然の要素が絡むこともあります。結果、現れる音楽が大きく違ったものになることはよくあるのです。

本公演では、「書かれた音楽」と「書かれない音楽」をほぼ交互に構成したプログラムにいたしました。公演チラシにも書かせていただいたことですが、これらは一見おおきく違ったものに見えつつも、深いところでつながっています。

取り上げた演目は、古いものから新しいものまでいろいろですが、いずれも、これまで私が手掛けてきた作品のなかでも選りすぐりの「自信作」です。お楽しみ頂きますと幸いです。

寺内大輔

Program

0. メトロノーム (1997)

パフォーマンス:寺内大輔, 三宅珠穂

1. 即興演奏「言葉を用いない詩」(2002~)

即興演奏:寺内大輔

2. 流れ —ヴァイオリンとピアノのために (2001/2005/2021)

ヴァイオリン:米川さやか

ピアノ:伊藤 憲孝

3. 旅 —2名の女声とピアノのために (1998)

女声:高橋真理子, 高松志奈

ピアノ:三宅珠穂

4. 三人姉妹 —ヴァイオリン, ギター, ピアノのために (2010)

ヴァイオリン:米川さやか

ギター:山田岳

ピアノ:伊藤憲孝

休憩

5. 野営 (2023, 世界初演)

パフォーマンス:川田智子, 倉本高弘, 高橋真理子, 高松志奈, 寺内大輔,
富村憲貴, 野村美貴子, 増野敦子, 丸尾喜久子, 三宅珠穂, 森すみれ

6. ことばの遊び II (2011)

ディーラー:高松志奈

ことばプレイヤー:倉本高弘, 高橋真理子, 野村美貴子,
増野敦子, 丸尾喜久子, 三宅珠穂, 森すみれ

即興詩人:川田智子, 富村憲貴

即興演奏:森すみれ

7. 坂道のような階段のような—ピアノのために (2021)

ピアノ:伊藤憲孝

立つ人:寺内大輔

作品解説

0. メトロノーム (1997)

1997年、寺内大輔は、大作綾とともに、パフォーマンスユニット「暗闇二人羽織」を結成した。「暗闇二人羽織」は、活動期間こそ短かったが、そこでの活動は、私のパフォーマンス作品の特質を方向づけることとなった。

本作は、2台のメトロノームを異なる速度で作動させ、2名のパフォーマーがそれぞれに合わせて歩行することを中心とした、きわめてシンプルな作品である。

本公演では、プログラム0番として位置づけ、短時間バージョンで演奏する。

1. 即興演奏「言葉を用いない詩」(2002～)

2002年、私は、詩の朗読イベント『詩のボクシング』に出演した。同イベントは、ボクシングのリングに見立てたステージ上で、赤コーナーと青コーナーに分かれ、1対1で交互に自作の詩を朗読し、ジャッジや観客が勝敗を決めるというゲームである。

言葉をうまく使うことが苦手な私は、言葉を一切用いない朗読を試みた。その背景には、キャシー・バーベリアン、メレディス・モンク、小野洋子、

巻上公一、イヴァ・ビトヴァといった、声を用いたパフォーマンスを行う先人たちへの深い尊敬と、彼女らからの強い影響がある(なお、ここに音響詩の先駆者であるクルト・シュヴィッターズの名前が含まれていないのは、当時の私が彼の仕事を知らなかったからである)。

『詩のボクシング』広島大会では、1回戦で敗退したが、その後、観客による投票によって敗者復活選手に選ばれ、そこからは連戦連勝、そのままチャンピオンになってしまった。数か月後、東京イイノホールで開催された全国大会では、広島代表選手として出場し、ベスト4まで勝ち進んだ。その様子がNHKで全国放送された際には、視聴者から多くのメールが届き、テレビの



影響の大きさにあらためて驚いたものである。その勢いに乗ってリリースしたのが、CD『言葉を用いない詩—寺内大輔声小品集—』である。

その後、私は、ライブ等で、しばしば同様の即興演奏を行っている(『詩のボクシング』では、ルール上楽器の使用は認められていないが、ライブ等では楽器をまじえた形で行っている)。ソロの即興演奏の場合、共演者がいないため、予期しない結果にはなりにくい。そのため、「即興演奏」と位置付けてはいるが、演奏の構成(はじまり—なか—おわり)や、おおよそその演奏時間はいつも

ほぼ同じである。当日の気分や体調等によって、毎回の演奏は異なるが、ほぼ「同じ作品」としてのアイデンティティをそなえるに至り、私は、この即興演奏に、前述のCDと同じ「言葉を用いない詩」という〈題名〉を付けた。本日は、どのような演奏になるだろうか。

Short pieces for voice by Daisuke Terauchi

Wordless poetry

寺内大輔 声小品集

言葉を用いない詩



2. 流れ —ヴァイオリンとピアノのために (2001/2005/2021)

対照的な2つの部分から成る。前半部分、ヴァイオリンとピアノにはそれぞれ上声部と下声部が書かれているが、必ずしも多声的な音楽になるとは限らない。実際の耳には、点のようにも、線のようにも、あるいはより複雑なテクスチャにも聴こえるだろう。後半部分、音楽は拍節をもたない。少しずつ音高を変化させながら持続するヴァイオリンを、ピアノが和音で彩る。

委嘱: 上土居宏予, 三崎富弥香

初演: 2001年2月24日・3月9日, 上土居宏予(Vn.)・三崎富弥香(Pf.), 「デュオリサイタル 二つ星 Vol.1」, スターピア下松(山口), エリザベト音楽大学ザビエルホール(広島)

CD 出版: sola label(広島)

『書かれた音楽—寺内大輔作品集』 <https://dterauchi.com/writtenmusic.pdf>

楽譜出版: マザーアース(東京)

<https://onlineshop.mother-earth-publishing.com/items/54921442>

その他: 2005年, ジョグジャカルタ現代音楽祭(インドネシア)入選

3. 旅 —2名の女声とピアノのために (1998)

「暗闇二人羽織」第2回公演のために制作。女声は、床にランダムに置かれたカードをめくりながら、書かれた音名の音を出す。ピアニストは、女声から聴こえてくる音と、カードに書かれている音名をたよりに即興演奏を行う。

1998年に制作されたオリジナル版と、2021年に改訂された改訂版があるが、本日はオリジナル版を演奏する。

初演(オリジナル版):1998年1月25日, 大作綾・浅田祥子(Vo.), 奥村愛(Pf.), 「暗闇二人羽織第2回公演一音と行為の展示」, アステールプラザ視聴覚スタジオ(広島)

初演(改訂版):2021年7月7日, クリストファー・ギブソン(prompter), 大類朋美(Pf.), 大島路子(Vla.), 川崎市立古川小学校児童数名(楽器)

4. 三人姉妹 —ヴァイオリン, ギター, ピアノのために (2010)

Trio Ku(米川さやか, 山田岳, 伊藤憲孝)から作曲の依頼を受けた際、私は各メンバーに「レパートリーの独奏曲の中で、あなたの好きな曲、かつ、その楽器らしさが表れていると思われる曲を1曲教えてください。」という要望を出した。

各メンバーから寄せられた曲は、次の3曲であった。

Sonata for solo violin No. 3, op.27, by E. Ysaye(Vn.)

Le Rossiniane op.119 by M. Giuliani(Gt.)

Polonaise, op.53, by F. Chopin(Pf.)

《三人姉妹》は、これら3曲を分解し組み立て直すこと—いわば「五線譜によるリミックス」—によって作曲した。とりわけ意識したのは、各楽器特有のジェスチャーと、各演奏者の関係性であった。聴き手の笑いを誘いたかったわけではないが、すこしのユーモアもまじえたかった。



委嘱:Trio Ku(米川さやか, 山田岳, 伊藤憲孝)

初演:2010年8月~9月, Trio Ku “ku Concert Tour ‘a Hiroshima’”, 広島, 東京, 神戸, ツェペルニツク, ベルリン, ハノーヴァー

CD 出版:kreuzberg records(kr10112)(ブリュール)

『Trio Ku: a Hiroshima』<https://kreuzberg-records.com/de/a-hiroshima>

CD 出版:sola label(広島)

『書かれた音楽—寺内大輔作品集』 <https://dterauchi.com/writtenmusic.pdf>

楽譜出版:Verlag Neue Musik(ベルリン)

[https://www.verlag-neue-](https://www.verlag-neue-musik.de/verlag/product_info.php?info=p2079_Three-Sisters.html)

[musik.de/verlag/product_info.php?info=p2079_Three-Sisters.html](https://www.verlag-neue-musik.de/verlag/product_info.php?info=p2079_Three-Sisters.html)

5. 野営 (2023, 世界初演)

本公演『書かれた音楽×書かれない音楽—寺内大輔作品展』で演じることを前提とした新作である。パフォーマーは、インストラクションにしたがったパフォーマンスをしながらも、即興的な判断でそれぞれの持ち味を生かした異なるパフォーマンスを行う。

パフォーマンスは、各パフォーマーの行為と知覚とが相互に関連し合いながら進行していく。今夜は、果たしてどのような空間が生まれるだろうか。

6. ことばの遊び II (2011)

本作は、2010年に制作した《ことばの遊び I》の続編である。

《旅》と同様、カードを用いた作品で、7名～19名の演奏者によって演奏される合奏作品である。演奏者の即興的表現と偶然性とが絡み合って現れる音楽と、ゲーム的要素を含んだルール設定が特徴的である。

なお、本作の前作にあたる《ことばの遊び I》は、2010年、アサヒ・アートスクエアが企画した「Asahi Art Square Grow up!! Artist Project 2010」の支援を受けて制作した作品のひとつである。同年12月に開かれた「Asahi Art Square Grow up!! Artist Project 2010 成果報告会」にて、スコア・スクローラー・プロジェクト協力アーティスト達とともに発表された。

インストラクション: 寺内大輔ウェブサイト内の「ことばの遊び」ページ。

<http://dterauchi.com/wordplay.html>(2011年9月現在)。なお、ここには、前作《ことばの遊び I》のインストラクションも公開されている。

関連論文: 「アンサンブル作品《ことばの遊び II》の学習材としての意義: 即興表現と演奏行為に着目して」広島大学大学院教育学研究科紀要。第一部, 学習開発関連領域 60号, pp.63-71, <https://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/32101/files/27719>

7. 坂道のような階段のような —ピアノのために (2021)

本作は、シングルレコード『坂道のような階段のような』(2021)のために書かれた。

レコードでは、Side A と Side B, 2つの録音をもってひとつの作品としたが、本公演では Side A のみを演奏する。また、本公演では、作曲者をステージに立たせた状態で演奏する。

音楽は、短く奏される和音と、音程の離れた装飾音を伴う旋律を中心としてすすむ。ソステヌートペダルの効果によって生じる複雑な残響は、本作の重要な要素のひとつとなっている。

余談だが、紅茶が似合うような気もする。



レコード出版:sola label(広島)

<https://tukutukupoo.thebase.in/items/45777044>

CD 出版:sola label(広島)

『書かれた音楽—寺内大輔作品集』 <https://dterauchi.com/writtenmusic.pdf>

楽譜出版:Donemus(アムステルダム)

<https://webshop.donemus.com/action/front/sheetmusic/21035>



※本作 Side-B は本日演奏されませんが、以下の URL でデジタル音源(演奏:伊藤憲孝)を、お聴きいただけます。

<https://dterauchi.com/slope-like-B.wav>



Biography

寺内 大輔 Daisuke Terauchi

作曲家・即興演奏家、博士(芸術工学)。
エリザベト音楽大学大学院修了。九州大学大学院修了。
作曲を、伴谷晃二、近藤譲、クラス・デ・ヴリーズ、ヴィム・ヘンドリクス
の各氏に師事。

音楽は、室内楽作品、パフォーマンス作品、即興演奏、校歌など、
多岐に渡る。即興演奏分野では、声を中心とした様々な楽器の持
ち替えによるスタイルで、コンサートホールのみならず、クラブや美
術館、路上にいたるまで様々な場所での演奏を行う。その他、美術
分野と関わった創作活動・表現活動も積極的に展開している。
これまで、日本を含む13カ国の芸術祭、コンサートで作品発表・即
興演奏を行い、楽譜・CD 数点が国内外で発売中。



呉市立白岳小学校非常勤講師、エリザベト音楽大学非常勤講師などを経て、2004年に渡欧。アムステルダムを拠点とした音楽活動を展開し、2007年に再び日本に居を移した。その後、広島大学大学院、広島県立呉特別支援学校、福山平成大学、広島文化学園大学非常勤講師、広島県立大柿高等学校などでの非常勤講師を経て、現在は、広島大学教育学部・同大学院人間社会科学研究所准教授。

ほか、音楽家、教師、一般、児童・生徒を対象とした即興演奏、作曲、音楽鑑賞、音楽教育、口琴に関わるワークショップやレクチャーの講師活動も行っている。

パフォーマンスグループ暗闇二人羽織、野営地、呉市音楽家協会、広島芸術学会、日本音楽表現学会、日本音楽即興学会、日本音楽教育学会、初等教育カリキュラム学会に所属。Creative Music Festival 実行委員。

<https://dterauchi.com>

主な作品(室内楽作品、合唱作品)

《糸—3本のクラリネットのために》(1998),
「作曲フォーラム'99」(1999:東京)プレゼンテーション作曲家公募入選作品、映画『Wat blijft beweeg』(Albert Elings 監督作品)のサウンドトラックとしても用いられている。
《薫—フルートとピアノのために》(2002), 第13回大邱国際現代音楽祭 2003(2003:韓国)招待作品
《流れ—ヴァイオリンとピアノのために》(2001/2005/2021), ジョグジャカルタ現代音楽祭 2005(2005:ジョグジャカルタ)入選作品
《王の主題—サクソフォンのために》(2006),

日本現代音楽協会(現代の音楽展 2009)(2009:神奈川)サクソフォンフェスタ公募入選作品
《命の手紙—児童合唱のために》(2017), (松永天馬作詞), 全日本少年少女合唱祭全体合唱作品
《峡谷—2台のピアノのために》(2022)

主な作品(パフォーマンス・即興演奏のための作品)

《メトロノーム》(1999)
《旅》(1999/2021)
《言葉を用いない詩》(2002-)
《青少年のための集団即興演奏入門》(2022)

主な作品(BGMのための作品)

《水の中の夢》(1993), アルパーク・アクアア
ヴェニュー-BGM
《DESHIMA》(2005), 芝田久のファッショ
ンショー『DESHIMA』(2005:アムステル
ダム)のための BGM, 三宅珠穂との共同制
作。

主な作品(校歌)

《呉青山中学・高等学校校歌》(2002) (井野
口慧子作詞)
《安芸高田市立美土里小学校校歌》(2003)
(井野口慧子作詞)
《呉市立明立小学校校歌》(2005) (井野口
慧子作詞)

主な即興演奏歴

「詩のボクシング」(2002: 広島・東京,
2004: 沖縄, 2014: 北海道)
「第13回大邱国際現代音楽祭オープニングコ
ンサート」(2003: 韓国)
国際詩人フェスティバル「炎の舌」(2005: ア
ムステルダム)
「デンマーク直観音楽会議」(2005: デンマ
ーク)
「DRAG」(2006: アムステルダム), ドラッグ
クイーン Hedda Lettuce らと共演
国際現代芸術祭「PLARTFORMA」
(2006: リトアニア), バンド Holiday
Rock のメンバーとして
「Trytone Festival」(2007: アムステルダ
ム)
「Serious Play Improv Lab (SPIIL 035)」
(2017: クアラルンプール)
「Daisuke & Friends」(2019: ホーチミン)

主な出版物(CD, 楽譜等)

CD「糸 寺内大輔作品集 I」Hale label
(1999)。
CD「言葉を用いない詩—寺内大輔声小品集」
Sola label(2002)
CD「Michal Osowski Collective, Live
at White Elephant」Aylar records

(2007)

CD「Trio Ku: a Hiroshima」Kreuzberg
Record(2012) (「三人姉妹〜ヴァイオリン,
ギター, ピアノのために」を収録)
CD「書かれた音楽—寺内大輔作品集」Sola
label(2023)



レコード「坂道のような階段のような—ピアノ
のために」Sola label(2021)
楽譜「流れ—ヴァイオリンとピアノのために」マ
ザーアース(2006)
楽譜「王の主題—サクソフอนのために」マザ
ーアース(2007)
楽譜「糸—3 本のクラリネットのために」
Donemus (アムステルダム)(2008)
楽譜「あかつきをまちこがれて—ピアノ伴奏を
伴う児童合唱または女声合唱のために」マ
ザーアース(2011)
楽譜「三人姉妹—ヴァイオリン, ギター, ピア
ノのために」Verlag Neue Musik(ベルリン)
(2017)
楽譜「坂道のような階段のような—ピアノのた
めに」Donemus(アムステルダム)(2021)
楽譜「峡谷—2 台のピアノのために」
Donemus(アムステルダム)(2023)
共著『音楽家の耳 トレーニング』近藤譲監修,
エリザベト音楽大学編 春秋社(2002)
単著『音楽の話をしよう—10 代のための音楽
講座』ふくろう出版(2011)



主な論文

「他者に聴かれることを意図しない音楽とその可能性—寺内大輔の3作品による例証と考察」、『音楽表現学』, 6 巻, pp. 29-38 (2008)

「ジョン・ゾーン《コブラ》の研究—即興演奏を素材としたコラージュとゲームをめぐる考察—」, 九州大学大学院芸術工学府博士論文 (2016)

“Exploring the Pedagogical Possibilities of the Idea of Composition Based on Children’s Interests and Strengths.” *The 13th Asia-Pacific Symposium for Music Education Research: Exploring Possibilities and Alternatives in a Changing Future*, Proceedings of the 13th APSMER 2021 TOKYO, pp. 219-227 (2021)

“Improvisation Based on Audience Requests: Pedagogical Possibilities of the Application “Sanka Play” for Performer and Audience Interaction in Elementary School Music Classes.” *INTERNATIONAL JOURNAL OF MUSIC EDUCATION*, 40, 3, pp. 419-431, (2022)

その他の作品・活動・受賞歴等

翻訳: トム・ジョンソン作曲《ナローヤーナの牛》(1999)

「詩のボクシング」広島大会初代チャンピオン (2002)

楽譜提示装置《Score scroller》(2006)と、それをういた作品《One day closer to paradise》(2006) (2006: アムステルダム, オランダ国立美術館)



ひとつの口琴をふたりの演奏者が向かい合って演奏する奏法を収録したビデオ作品《くちづけ口琴》(2006) (2007: パリ, 映像フェスティバル「Filmer la musique」入選)



酒蔵の貯蔵タンクに自作の自動演奏装置《タタッキー》を取り付けた作品《海》(2009: 広島)

Asahi Art Square「Grow up!! Artist Project 2010」のサポートアーティストに選出(2010)

水道の蛇口をひねると水の代わりに「おっさんの歌声」が出てくるインスタレーション《蛇口》(2015: 京都)

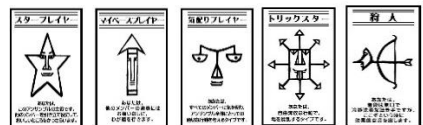
日本音楽即興学会賞受賞(論文「ジョン・ゾーン《コブラ》の作品概念」に対して)(2016)

自らの就職活動中に受け取った不採用通知を作品化した《就職活動 2007-2011》(2022: 広島)

アローラ & カルサディーラによる作品《Lifespan》(2014)のパフォーマンス(2018-2019: 大阪, 国立国際美術館)および同作品のパフォーマンス指導(2020: 香港)。

聴衆と演奏者がリアルタイムで相互コミュニケーションを行うためのコンピュータ・アプリケーション《サンカプレイ》(2017)

即興演奏を取り入れたカードゲーム《ヤクアテ》(2019)



伊藤 憲孝 Noritaka Ito

ピアニスト。ニューヨーク、ベルリンなど世界各国の音楽祭、演奏会で演奏を行い、CD・音源配信が国内外で発売されている。福山平成大学教授、広島大学客員教授、エリザベト音楽大学大学院講師。
<https://www.noritakaito.com/>



米川 さやか Sayaka Yonekawa

東京芸術大学、ベルリン芸術大学を卒業。現在大阪交響楽団 2nd violin 首席奏者。紫苑弦楽四重奏団メンバー。ハイドンを中心とした演奏活動を行っている。現代音楽分野では、ピアノとギター、ヴァイオリンによる Trio Ku メンバー。これまでに世界各国の作曲家に作品を委嘱し、初演を行ってきた。

山田 岳 Gaku Yamada

ギターや声、自作楽器によるパフォーマンス、作曲、演劇、ダンスなど広い領域で活動。第20回朝日現代音楽賞、第75回文化庁芸術祭優秀賞(レコード部門)、第76回文化庁芸術祭大賞(音楽部門)、第21回サントリー芸術財団佐治敬三賞を受賞。レコード・レーベル「blue tree」主宰。



野営地

<https://yaeichi.jimdofree.com/>

川田 智子 Tomoko Kawada
倉本 高弘 Takahiro Kuramoto
高橋 真理子 Mariko Takahashi
高松 志奈 Shina Takamatsu
寺内 大輔 Daisuke Terauchi
富村 憲貴 Noritaka Tomimura
野村 美貴子 Mikiko Nomura
増野 敦子 Atsuko Mashino
丸尾 喜久子 Kikuko Maruo
三宅 珠穂 Tamaho Miyake
森 すみれ Sumire Mori



国立国際美術館「開館 40 周年記念展」パフォーマンスのため集まったメンバーが中心となり、ひとりではできないパフォーマンスを行うために 2018 年に生まれた集団。現在は 19 名の多様な活動を行っているメンバーにより構成されている。

これまでの企画・公演等

2019 年 1 月 ポーリン・オリヴェロス ソニックメディテーション・ワークショップ 京都 Social Kitchen

2019 年 4 月 音楽の話(レクチャー) 京都 Social Kitchen

2019 年 7 月 音楽の話(レクチャー) 京都 Social Kitchen

2019 年 7 月 ポーリン・オリヴェロス ソニックメディテーション・WS 大阪池田 ぼんまい

2019 年 8 月 声と打楽器の即興音遊び 豊中市立文化芸術センター アクア音楽室

2019 年 9 月 OTOPLAY 豊中市立文化芸術センター アクア音楽室

2019 年 10 月 第4回 壁がなければ展 パフォーマンス参加 神戸アートスペースかおる

2020 年 3 月 スペシャルポエム メールによるイベント

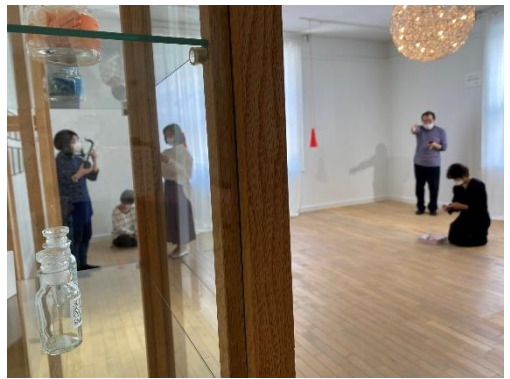
2020 年 10 月 日本音楽即興学会 Online パフォーマンス参加

2021 年 2 月～3 月 塩見允枝子 Performance & Visual Works 2021 Kobe 神戸 SALON

2021 年 5 月 音のほころび展(with 池田慎)大阪谷町 +1Art

2021 年 9 月 第5回 壁がなければ展 パフォーマンス参加 神戸三宮 ArtBox

2021 年 10 月～11 月 のせでんアートライン2021参加作品 呼応するターミナル 能勢電妙見口駅構内





助成



神戸文化支援基金

日本音楽即興学会

JASMIN (ジャスミン)

The **J**apanese **A**ssociation for the **S**tudy of **M**usical **I**Mprovisation